1 学校運営の目標・方針

「豊かな心を持ち、自立する生徒の育成」
 「自主・創造・友愛」の校訓と「根の養い教育」の伝統を基盤に、生徒一人ひとりの個性を生かし、その能力を伸ばし、感性豊かで「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成に努める。
 —「つながる人 つながる つなげる夢・未来」—

2 本年度の重点目標

①学習指導の充実 ②道徳教育の推進 ③特別活動の充実と活性化
 ④生徒指導の充実 ⑤特別支援教育の充実 ⑥安全教育の充実と防災教育の推進 ⑦情報教育の推進 ⑧食育の充実

4 総合的な学校関係者評価

・目標・方針を実現のために前向きに取り組んでいる。 ・様々な活動の中でそれぞれの生徒が主体的である姿を見受けられた。
 ・生徒の個性や能力を伸ばすよう努めており、生徒がそれに応えて逞しく成長し、好循環が生まれている。
 ・50周年行事を通じ地域と学校のつながりを感じる事ができた。 ・開かれた学校づくりができています。
 ・人とのつながりが創られ、生まれた結果、地域の中の学校として存在感を示せた。
 ・50周年行事をはじめ様々な行事を通じて多くの方が学校と関わってくれたし、生徒たちも臆することなく外の世界で活動していた。
 ・学校運営、教育はもちろん、地域に目を向け、人、モノ、コトにたずさわって生徒たち一人ひとりの成長に繋がっている。
 ・時代の変化に教職員の方々は大変だと思うが、生徒たちの為に、とやっているところは伝わる。
 ・伝えると伝わるの違いが今、難しくなっている。
 ・学習に関する項目で自分から学習を進めたり深めたりできている生徒が少ない。
 ・学習面で保護者の思いと距離があるので、学習面だけに絞ったアンケートを実施しても良いのではないかなと思う。
 ・SNSは便利で進化していくが、様々な問題を含んでいる。正しくつながるため、親にも子にも、学校教育で機会あるごとに取り上げていく必要がある。

3 学校自己評価結果 A:十分達成している(そう思う)

B:おおむね達成している(ややそう思う)

C:どちらかという達成されていない(あまりそう思わない)

D:ほとんど達成されていない(そうは思わない)

4 学校の取り組み状況・改善等の方策

取り組み状況 継続 改善・課題

5 評価項目ごとの学校関係者評価

意見 改善方策・要望

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	結果	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	開かれた学校づくり ・日々の教育活動を学校便り・学年通信・学級通信・ホームページ等でわかりやすく伝える。 ・地域の方とのふれあいの機会を増やす	A	○創立50周年行事を通して、地域の方とふれあい、つながる学校づくりができた。 ○コミュニティ・スクールで地域防災の炊きだし等学校と地域が連携して取り組めた。 ○多くの生徒がボランティア部として地域行事に参加することができた。 □学校便り、学年通信、進路通信、コミスク通信、保健便り、給食便りを定期的に発行している。 △生徒の地域での活躍をより多くの保護者にも知っていただく。	○50周年行事では一人一役と全員が各自の役割を果たし達成感を味わえたと思う。 ○定期的に発行している学校便り等が心に響く内容で充実している。 ○ホームページやスクリーンなど情報が分かりやすく提供できていると思う。 □50周年行事を通して、より地域との連携に取り組めたのは有意義だった。何らかの形で残せないか、各小学校とのつながりをもっと増やせないかと考える。 □50周年行事で卒業生、地域の方と交流を持てたので、今後より一層地域の方々に生徒たちの活躍を知ってもらおう。
	生徒指導 ・教職員が一致協力して生徒指導を行う。 ・生徒の内面理解に基づいた指導を行う。	A	○人権を大切に取る取組みを授業や生活の中で活かす取組を意識してできた。 ○登校しづらい生徒に対し保護者や専門スタッフと連携し居場所づくりに取り組めた。 □ふれあいルームでは、教室に入りにくい生徒らに全職員で関わる事ができている。 □Q-Uテストや困りごとアンケートを実施し結果をいじめなどの指導に活かしている。 △さらに生徒に寄り添い、生徒理解に努める取組をしていく。 △小さな行動にさらに目を向け、いじめ等の早期発見に努める。	○日頃から一人ひとりの考え方や特性を理解することや認め合いの大切さを指導していると感じる。 ○一人一人の生徒に寄り添った指導ができている。 ○授業、部活、生徒指導ときめ細かく丁寧に指導している。 □丁寧な取り組みを継続することがいじめ等をなくするために有効だと思う。 □教師間の連携、保護者との対応(初期)を大切に取組んでほしい。
	進路指導(キャリア教育) ・職業観、勤労観の育成と個々の能力・適性を踏まえた進路指導(キャリア教育)を行う。	A	○2年生での私立高校の説明会を実施するなど積極的な進路指導に取り組めた。 ○生徒が自分の興味や適性等を考えた進路選択ができるよう計画的に指導している。 ○職業講話やトライやる・ウィークなどの体験活動や生き方を考える学活や進路作文等の表現活動により、自己理解や進路についての考えを深める機会をつくっている。 □二者面談、三者面談を行い、自己を見つめるよりよい進路選択へ繋げている。 △1年生から自分の夢や生き方について保護者と共に考える機会を増やしたい。	○自己の興味関心や能力について考える機会を持つことは重要だと思う。 ○生き方が多様化する現代に合う教育活動をより多く取り入れることは必要だ。 □生徒たちの夢実現に向けての丁寧な指導にあわせ、保護者への進路説明の機会を設け、親子で考える機会が増えればいい。 □先生や両親、地域の人の体験談から自分の将来像を描く機会を設けてはどうか。
	教職員の資質向上 ・計画的な研修を通して教師の資質向上を図る。	B	○人権教育、道徳教育など指導力向上のための職員研修を積極的に実施できた。 ○講師招請や人権教材の効果的な使用を考えた研究授業に全職員で取り組めた。 △生徒が主体的に取り組める各教科の授業づくりさらに取組んでいきたい。 △成果が現れるよう、今後も指導力向上に全職員で研鑽を積んでいきたい。	○職員同士の共通理解を基に生徒主体の教育を考察し、研鑽に励んでいると思う。 ○教える側のスキルアップは不可欠だと思う。 □学校教育の一番大切な所なのでさらなる取組をお願いしたい。 □様々な指導方法の取り組みは良い事だと思う。継続してほしい。 □教師が主体的に研修を深めることができるよう支援が必要だと思う。 □ICT等情報教育の中で心の教育も大切にしてほしい。
	部活動指導 ・生徒の健康・安全に配慮し、自発的な活動を行う。	A	○熱中症に配慮し、健康、安全に気をつけて取り組むことができた。 ○ノ一部活デーの実施など部活動方針に基づいた部活動の運営ができている。 □生徒の自主性を高め、仲間の大切さなど心の成長につながる部活動指導を今後もしていく。 □地域移行後の部活動の果たす役割を考え、今後の方向性を引き続き検討していく。 □地球温暖化に伴う気温上昇の中、夏の熱中症等への注意をしながら安全に活動をしていく。	□部活動で、結果や成果に関係なく、全ての生徒に温かい目を向けてほしいと思う。 □参加する生徒の心や体の成長のため、安全で意義ある活動を模索してほしい。 □地域移行後の部活動のあり方を考慮し、生徒達の自主的な活動ができるよう指導してほしい。 □部活動は技術を身につける前に人間関係の構築に不可欠なものなので先生方の尽力に敬服している。遠征、対外練習等が多い部活動はより一層保護者の理解を得られる活動にしてほしい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程	確かな学力の育成 ・基礎基本の定着を行う。 ・「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。	B	○多くの考えに触れさせ、主体的に課題解決に取り組める指導方法を工夫している。 ○休みがちな生徒にも授業の情報や課題の提供し細やかな学習支援に努めている。 □補習やテスト前の質問会など課題のある生徒への個別対応を継続していく。 △個別学習や協働学習等、生徒が課題を持ち、主体的に学習できるよう研究する。	○生徒たちが自主的に学習する手立てを学校と家庭で考えなければならない。 ○自分から主体的に学ぶ態度を身につけることは大事だが、基礎ができていないと発展も継続もないと思う。基礎づくりが大切。 □教科書からの学びはもちろん、地域との触れ合い等から、生徒が主体的に課題を見つけ、将来に役立てられる学びを大切にほしい。
	特別活動 ・学校行事の精選と行事内容の充実を図る。	A	○体育祭や文化祭などの行事で創立50周年を祝う工夫を生徒たちで取り組めた。 ○50周年行事では縦のつながりがある、ふれあい、つながる活動ができた。 ○行事やボランティア等で、誰かのために役立つことの大切さを生徒たちは学んだ。 ○生徒会活動や各行事を通して集団のつながり意識を高めることができた。 △行事を精選すると共に、その目的を明らかにし、より充実した取組にしていきたい。	○大きな行事や校外、地域での行事への参加により、生徒に幅広い人間性が育っているように思う。 ○・50周年行事等で地域と良い関係を築き、充実した取組になっていた。 ○生徒達が自主的に取り組む姿に感動した。
	道徳教育 ・全教育活動の中で道徳性を高める。 ・「特別の教科 道徳」の指導方法を工夫する。	A	○学校評価で多くの生徒がその成長に応じた学びができていたことが感じられた。 ○講師を招いて全校公開授業や指導方法の研修を積極的に行うことができた。 ○ローテーション授業では教師が相互に授業参観し、指導方法の改善に取り組んでいる。 △道徳科の評価方法についての情報交換を積極的に行い、よりよい評価を目指す。	○道徳授業での指導などにより、生徒達がそれぞれの成長に応じた学びができていた。学校評価の記述にもそれが表れているのは素晴らしい。 ○道徳の授業実践を積むことに加え、ボランティア等の活動でも道徳性を高めるように取り組んでいた。
	総合的な学習の時間 ・全体計画の作成とその取り組みの工夫・改善を行う。	A	○全校または各学年で全体計画を立て、目的意識をもって取り組むことができた。 ○生徒の心を言葉で育てることを大切に、伝え合う機会を意識して計画ができた。 □3年間を通して生徒を育てる視点を持ち、目的意識を共有して効果的に行っている。 △いつも通りではなく、常に目的をもって効果を検証しながら取り組んでいきたい。	○生徒が主体的に計画し、学んだ事を自信を持って発表できており、成長につながっていると感じる。 ○互いに理解し合える環境づくりに努力されていることがよく理解できる。
	特別支援教育 ・個に応じた指導計画を作成する。 ・指導方法や指導体制の工夫を行う。	A	○特別支援学級の授業に、より多くの教師が関わることができた。 ○生徒の学びに即したきめ細やかな指導を積極的に行っている。 □小学校と連携し、児童生徒の入級相談や入学後の指導について情報交換している。 △個々の生徒に関する情報共有を密にし、職員の連携をさらに強めていきたい。	○多くの教師で連携して生徒に関わることは大切だと思う。 ○通級教室、みんなの部屋、ふれあいルームなど、個別の対応や心のケアへの配慮ができています。 □小学校との連携を強めることは、生徒の成長にとって大切なので続けてほしい
	人権教育 ・人権尊重の精神を育成する。	A	○県の人権教材を使った授業の研究に全職員で取り組むことができた。 ○今年度はLGBTQの講演を聴くなど、新たな人権課題を中心に学習を進めている。 □日々の指導や教育活動で、自分も相手も大切にできる生徒の育成に努めている。 □生活ノート・日頃の対話を大切に、生徒理解を深めていく。 △人権教育について全職員で研修し、人権意識を高める授業づくりに取り組んでいく。	○お互いの良いところを認め合い肯定する雰囲気がある。教師の姿勢が良い影響を与えていると感じる。 ○SNS上の人権問題に触れる機会が増え多くなると思う。この問題を取り入れ、正しい人権感覚が育つことを願っている。 □人の中で生きていく以上、自分と同じように他人を理解し大切にできる指導を引き続きお願いしたい。
食育の推進 ・教育課程・学校給食を通じた食に関する指導を行う。	B	○食育放送や掲示板など、給食委員会などによる充実した取り組みがされている。 ○給食試食会に多くの保護者に来ていただくことができた。 □1年生で生産者との交流などの地域連携も積極的に行っている。 □食に関する指導の全体計画に基づき、栄養教諭を中心に食育を推進している。 △食育を意識した教育活動や研修に学校全体で取り組んでいきたい。	○生産者との交流等を通し食への意識を高めることは、より良い食習慣にも、つながっていると思う。 □防災教育の食事と関連付けた食育をもっと進めてほしい。 □給食の時間を改善してほしい。20分は必要である。食の大切さと食べ物を大切に指導を引き続きよろしく願っていた。 □物価高の時世、栄養士の先生、調理員さんも大変だと想像しますが、子どもたちの心と体の成長のため頑張してほしい。	
分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	情報教育の推進 ・情報モラルを育成する。 ・ICT機器の効果的利用を推進する。	B	○1人1台端末の機能を効果的に活かした授業により多くの教科で取り入れている。 □授業が教室で受けられない生徒に1人1台端末を使って授業の配信を行っている。 □外部から講師を招き、情報モラル教室を実施し使用について指導をしている。 △ICT機器設備の充実とそれらを活用できる教師の指導技術も高めていく。 △SNSの使用について生徒自身がルールづくりや発達をする機会をもたせたい。	○情報教育は今後ますます重点が置かれるところなので生徒自らがそのルール作りに関わることはとても良いことだ。 ○情報過多の時代に正しい判断のもとで情報を活用できる生徒であってほしい。 □情報教育を行うための教師の研修が不可欠だと思う。日々進歩していく分野だと思つので研鑽を積んでほしい。 □タブレットを使った教育、活用をもっと増やしてほしい。 □機器が各生徒に1台配布されるのはよいが、いつでも使用できる体制がほしい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善等の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	防災教育・安全教育 ・災害や犯罪から自らの生命を守るため主体的に行動する力を育成する。	A	○50周年行事ではコムスク主体で地域防災としての炊き出し訓練を実施することができた。 ○避難訓練は異なる時間帯や被害状況を想定し、それに応じた訓練を工夫できた。 □自転車での登下校時の並進禁止など、安全意識の向上を今後も啓発していく。 □安全のため、施設の修理、点検を密に行い、修理工事を町教委に要請している。	○生徒たちは防災の大切さを感じ取り、主体的に行動し、地域の方々とも連携できていた。生徒たちの底力を感じた。 ○イベントを通して地域の方と生徒、職員との連携ができ、活動がつながっていた。 ○50周年行事の炊き出しはとても楽しんで取り組めた。 ○各学年に応じた防災への意識教育がなされている。 ○家の近くでヘルメットを外している生徒もいるが、以前よりずいぶん少なくなった。 □防災教育が家庭・地域などに、より広がるように継続してほしい。
	体験活動の充実 ・行事への目的意識を高める指導を行う。 ・地域社会と連携した指導を行う。	A	○特別支援学校や高齢者施設へ手作りのプレゼントを贈るなど心の交流を行う機会がもてた。 ○トライやる・ウィークは事業所の協力のもと実施でき、貴重な学びの体験となった。 △体験活動を行う際に、より目的意識をもちマナーを守って取り組む指導を意識して行う。	○人を大切にできる心の交流ができていることは素晴らしい。 ○施設、幼稚園、小学校、高校等々地域の方々との交流を積極的に取り入れており、生徒が学ぶことが多かったと思う。 □トライやるで受け入れ事業所は減っているのか。開拓の要否は。 (一事業所は町や地域の方の協力により、増える。さらに声かけをしたい。)
努力目標	・学習習慣を確立させ、自ら主体的に学ぶ態度や意欲を育成する。 ・家庭学習の充実を図る。	B	○始業前着席や授業の準備など、学習に前向きに取り組む姿勢ができている。 ○1人1台端末を使った授業や教材の配信で家庭学習がより取り組みやすくなった。 △家庭学習を充実させるため、課題を工夫し啓発を継続し、生徒の意識を高めたい。 △学習規律を確立し、生徒の学習意欲を高める指導力の向上に全職員で取り組む。	○防災教育への取り組み姿勢や講演を聞く態度を見て、生徒たちは前向きで主体的に学んでいるように思う。 ○家庭学習についての保護者の評価が低いのは成績との関係も影響が大きい。 ○家庭学習は習慣化が大切。毎週、課題を立て集中的に取り組む等工夫がいる。 □生徒自ら目標を持つことが大切である。少しのことで良いので毎日続けて、習慣づける取り組みを大切にしてほしい。 □学力面で不安を持っている保護者が多いため具体的な手立てを考えてほしい。
	・全教育活動を通して生徒の自尊感情を高める。	A	○様々な学校行事や地域に出て人とふれあう中で、生徒の自尊感情が高まった。 ○生活ノートや普段の生活を注視し対話を増やして個々の思いを知るよう努めている。 □教師自身も人権意識を高くもち、全教育活動で心を育てられるよう取り組んでいる。 △人間関係形成や人とのコミュニケーションに不安を感じている生徒に配慮してチームで生徒を守る意識を持って取り組んでいきたい。	○様々な行事や地域との触れ合いの中で、生徒たちは自ら考え行動し、実体験を通じて自己肯定感を高めることができていると思う。 ○人は人の中で育つ。家族、友達、教師、地域の人と関わって成長していくので良きも悪しきも愛情を持って接し、時には見守ることが大切と思う。 □生徒を擁護する面と厳しく接する面との両面から指導をお願いしたい。 □様々な機会を通して生徒一人一人の人間関係に気をつけていく必要がある。
	・ルールを守る生徒を育成する。 (時間・頭髪・服装)	B	○校則を見直し、多くの生徒たちは自分たちでしっかり考えることができている。 □学校評価アンケートから、生徒・保護者共に規範意識への評価が高いことがわかる。 △安全や健康の面からも、朝に余裕を持って登校できるよう呼びかけを続けていく。 △登下校の安全を考え、生徒が交通ルールを守る意識を高めたい。	○生徒たちは、きびきびと行動できており、意識の高さを感じる。 ○なぜルールが存在するのか、その必要性を考えることが規範意識につながっている。 ○校則を含め、ルールの必要性を生徒達で考えることができるような環境をつくっているのは良いことだと思う。
	・TPOを考えた言動のできる生徒を育成する。(言動・礼儀・あいさつ)	A	○進んであいさつ運動に参加する生徒たちがおり、生徒のよい刺激になっている。 ○地域で多くの方とふれあう中で、あいさつや言葉の大切さを感じさせることができた。 □集団生活で大切な思いやりやマナーの大切さについて、機会を捉えて伝えている。 △生徒らが校則を見直す機会を定期的にもち、TPOを考えた言動について考える機会を増やしたい。	○ハッキリ大きな声で挨拶できている生徒が多い。地域の方々からの声掛けもあり、生徒の意識も高まっている。 ○思春期の難しい年頃なので、地域の大人から積極的に挨拶することが大切。 ○挨拶してくれる生徒が増えた。気持ちがいい。こちらも進んで挨拶をしている。 □挨拶が人との関わりの第1歩なので大切にしよう徹底してほしい。
	・教師も一緒に清掃し、校内をきれいにする態度を育成する。	A	○清掃には教師が同行し、生徒も清掃活動に熱心に取り組んでいる。 ○生徒会美化委員による用具の点検活動が確実にできている。 □定着した新しいトイレの掃除方法を引き継がせていきたい。 △清掃を通して学べることも多く、引き続き取り組みを学校全体で行いたい。	○校舎内は清潔に保たれている。いつもきれいに整えられ、気持ちがいい。 ○小学校への奉仕作業では真面目に取り組むことができていた。 ○生徒たちも積極的に美化活動に取り組んでいる。学校全体で清掃活動に取り組んでいることは素晴らしい。 ○トイレのスリッパを進んでそろえている生徒を見かけて感動した。
自己評価における特記事項				
・50周年の年に、学校運営協議会のある学校(コミュニティ・スクール)の利点を活かし、地域防災・地域連携に取り組む中で、「地域の方と願いを共に生徒を育てる」ことの素晴らしさを感じることができた。				○「積極的に地域と関わることで理解を得て共に生徒を育てる良い態勢ができつつあると思う」との言葉の通り、素晴らしい取り組みと評価する。続けることが大事だと思う。